

令和 5 年 度

健康福祉サービス自己評価結果報告書

報告書の内容

添付書類	添付した書類に○を記入
チェック済評価基準	○
評価基準概評	○
サービス改善計画	○

施設・事業所名：児童発達支援・放課後等デイサービス ハイタッチ

健康福祉サービス自己評価実施状況報告書

令和 6 年 4 月 26 日

大津市障害福祉課長 あて

(所在地) 滋賀県大津市富士見台 54 番 40 号
(施設・事業所名) 児童発達支援・放課後等デイサービス ハイタッチ
(代表者職・氏名) 代表取締役 富元 重幸

健康福祉サービス自己評価を、「本県における健康福祉サービス評価システムの推進について」により実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

1 施設・事業所の名称

株式会社 ピースラボ
児童発達支援・放課後等デイサービス ハイタッチ

2 評価基準およびサービスの種別 (該当の記号に○印を付し、サービスの種別を記入)

○評価基準

ア 障害福祉サービス共通評価基準① [障害者/施設、グループホーム]

(種別:)

イ 障害福祉サービス共通評価基準② [障害者(児)/在宅]

(種別:)

ウ 放課後等デイサービス自己評価表

エ 児童発達支援自己評価表

オ その他の評価基準 (具体的に:)

※種別 (記入例: 就労継続支援B型)

3 自己評価の実施時期 (自己評価結果をとりまとめた時期)

令和 6 年 4 月

4 県のホームページで、自己評価を実施した施設・事業所の名称、所在地、実施時期、事業所での評価結果の公表の有無を情報提供することについて

提供してもよい ・ 提供しないほしい

5 自己評価結果の公表の有無（該当するところを○で囲む）

- ①市町への送付 した ・ しない
- ②滋賀県健康福祉事務所への送付 した ・ しない
- ③県庁障害福祉課への送付 した ・ しない
- ④施設・事業所内での閲覧提供 した ・ しない
- ⑤インターネットのホームページ した ・ しない
- ⑥その他の方法での公表

（具体的に： _____）

6 サービス改善計画の公表の有無（該当するところを○で囲み、括弧内に記入）

- ①市町への送付 した ・ しない
- ②滋賀県健康福祉事務所への送付 した ・ しない
- ③県庁障害福祉課への送付 した ・ しない
- ④施設・事業所内での閲覧提供 した ・ しない
- ⑤インターネットのホームページ した ・ しない
- ⑥その他の方法での公表

（具体的に： _____）

7 自己評価を実施して感じたこと、評価基準・ガイドライン等への意見やサービス評価について今後望むこと

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 4 月 26 日

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービス ハイタッチ

		チェック項目	はい	いいえ	hou	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2			ガレージや、2階を利用する場合もある。
	2	職員の配置数は適切である	1	2		その日(曜日)によって、少なく感じる時があるので、適正化を図りたい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		1		玄関の階段部分は、引続き検討課題。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	2			
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4			保護者の生の声も、直接的に聴くように努めていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	2		何らかの対応を検討したい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3			内部研修の更なる充実と、外部研修に積極的に参加していく。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4			音楽タイム・読み聞かせ・アートタイム・健康体操・町内ゴミ拾い・公園遊び・クッキングの各取組みを定着させていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	2			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	2			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	2			パート職員への伝達(その日の登所児童との関わりで特に配慮すべき点)を徹底する。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2			
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	2			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	2			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	3			各学校が設定した授業参観や面談の場にも、引続き問題意識を持って積極的に参加し、意見交換・情報共有に努めていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1			
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1			
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4			今後とも連携を強めていきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		3		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	1		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4			
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	2		全職員が、「ペアレント・トレーニング」に対する理解を深めていく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		4		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3			
	35	個人情報に十分注意している	4			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	1		自治会からチラシ等で案内のあるイベントには出来る限り参加しているが、検討課題である。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	2		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3		緊急時に於ける具体的対応(マニュアル)を、全職員(パート職員を含めた)間で、常に理解し合っておく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4		

障害福祉サービス共通評価基準 概評 [各シート共通]

○概 評

<p>①非該当とした項目（放課後等デイサービス、児童発達支援については「いいえ」とした項目）の説明、②独自に必要と思われる評価項目等、③項目評価を通じて気づいた点などを記入してください。</p>
<p>放課後等デイサービスについて【保護者等からの事業所評価】</p>
<p>「環境・体制整備」の項目に関しては、多くの保護者から概ね理解を得てはいるものの、職員の配置数や専門性の適正及びバリアフリー化への配慮については、「どちらともいえない」の回答を少なからず頂いた。</p>
<p>特に、玄関の階段の場合はそのバリアフリー化が難しい現状にある。取り分け、身体障がいのあるご利用者については、全職員がご利用者一人ひとりの障がいに即したリスクマネジメント意識と、介助スキルの向上により努めていきたい。</p>
<p>「日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか」の項目に対するご意見は、保護者にとっては重要で大きな関心事の一つでもあるので、大切に受止めていきたい。連絡帳への弊所の記述に関しては、「簡略化」を図ることによって職員個々の児童達への関わりを物理的に増やすことが狙いである。各保護者に対して、そのことへの理解を送迎時やモニタリングの席で直接口頭でお願いをしてきた。従来のかたちを望まれる保護者については、今後ともそのご意思を尊重していきたい。引き続き保護者には、送迎時に最近の児童の様子や変化について簡潔に情報交換を行う。但し、「問題行動」の事実自体を伏せたり、それを一面的・否定的に報告するのではなく、その背後の評価すべき点や利点をより認識することに努め、肯定的に伝えるように意識していく。また、SNSを有効に駆使しては特にLINEの写真や動画によって、保護者に支援内容とその様子や児童の表情がリアルタイムで、しかも双方向的に伝えることが出来る。いずれにしても、対保護者と児童の発達の状況や課題について共通理解を進めていく為には、SNSに比重を置き過ぎることなく、実際にお互いの顔と顔が見える関係性を、何よりも大切にしていきたい。</p>
<p>「放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか」と「父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか」の項目は、毎年のことだが「どちらともいえない」「いいえ」の回答が圧倒的に多い。前者については、「障がいのない子どもと活動する」ことの意義・重要性は認識しているつもりだが、放課後児童クラブ等との交流は、その必要性や緊急性といった観点からも現実的には難しい状況にある。後者についても、その理念は否定すべきではないが、その支援までには至っていない現状にある。</p>
<p>「緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか」の項目も、「どちらともいえない」「いいえ」の回答が目立つが、引き続き、入所手続きやモニタリングの折等に周知し、保護者に安心して頂けるように努めていきたい。</p>

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 4 月 26 日

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービス ハイタッチ

		チェック項目	はい	いいえ	hou	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2			ガレージや、2階を利用する場合もある。
	2	職員の配置数は適切である	1	2		その日(曜日)によって、少なく感じる時があるので、適正化を図りたい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		1		玄関の階段部分は、引き続き検討課題。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	2			
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4			保護者の生の声も、直接的に聴くように努めていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	2		何らかの対応を検討したい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3			内部研修の更なる充実と、外部研修に積極的に参加していく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4			音楽タイム・読み聞かせ・アートタイム・健康体操・町内ゴミ拾い・公園遊び・クッキングの各取組みを定着させていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	2			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	2			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	2			パート職員への伝達(その日の登所児童との関わりで特に配慮すべき点)を徹底する。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2			
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4			
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	2			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	2			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	3			各学校が設定した授業参観や面談の場にも、引き続き問題意識を持って積極的に参加し、意見交換・情報共有に努めていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1			
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1			
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4			今後とも連携を強めていきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		3		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	1		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4			
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	2		全職員が、「ペアレントトレーニング」に対する理解を深めていく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		4		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3			
	35	個人情報に十分注意している	4			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	1		自治会からチラシ等で案内のあるイベントには出来る限り参加しているが、検討課題である。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3			
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	2			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3			緊急時に於ける具体的対応(マニュアル)を、全職員(パート職員を含めた)間で、常に理解し合っておく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4			

障害福祉サービス共通評価基準 概評 [各シート共通]

○概 評

①非該当とした項目（放課後等デイサービス、児童発達支援については「いいえ」とした項目）の説明、②独自に必要なと思われる評価項目等、③項目評価を通じて気づいた点などを記入してください。

放課後等デイサービスについて【事業所に於ける自己評価】

「環境・体制整備」の項目に於ける職員の配置数に関しては、当然ながらその日の登所児童の顔触れ（障がいの違い・男女比等）によって少ないと実感する。弊所の場合、重度心身障がい児のご利用が多い日も少ない。

「業務改善」の項目では、SNSに依拠し過ぎることなく保護者の生の声を直接的に聴くように努め、業務改善に繋げていきたい。連絡帳記述の簡素化と担当制（本年2月より開始）によって、正職員によるご利用者との関わりの深化を図っていきたい。

「適切な支援の提供」に於いては、昨年の5月から取組みを開始した「読み聞かせ」（モニタリングの席での一保護者からの要望を受け）と共に、本年度から開始した新たな各取組みを定着化させていきたい。また、適切でより質の高い支援を提供する為に、パート職員に対する指導・伝達（人権尊重に基づく「障がい理解」及び「障がい特性」への理解と関わりのスキル等）を徹底していきたい。

「関係機関や保護者との連携」では、各学校が設定した授業参観や面談の席へ臨む前に、関係するご利用者の最近の様子や課題に関する全正職員の議論を必ず行っているが、その議論の内容を充実させていきたい。

「保護者への説明責任」に関しては、保護者が日常の送迎時やモニタリングの席で吐露された養育上の不安や悩み、弊所に対する苦情や要望について、今後とも迅速な情報共有を図り早急にその対策を進めたい。

「非常時等の対応」に於いては、ご利用者が弊所にてケガをされた場合や、送迎中に交通事故に遭遇された際の緊急時の行動を、マニュアルに即応し冷静且つ正確に取るが必要不可欠である。その為には、パート職員を含めた全職員が、日頃から緊急時の対応マニュアルをよく理解しておくように努める必要がある。

サービス改善計画書

策定日：2024年4月26日

事業・サービス名：放課後等デイサービス

施設・事業所名：ハイタッチ

自己評価項目	評価結果	問題点・課題	改善内容と目標	時期と期間	責任者	備考 (必要な予算等)
働きがいのある職場環境づくり	継続	仕事上の悩みを打ち明け易い人間関係づくり	職員が相互の長所を認め合う職場の風土づくり及びヒヤリングの定例化を推進	一年間	富元	
職員の資質向上	継続	全職員（パート職員を含む）の人権意識・感覚の向上	内部研修（パート職員を含む）の推進/日常的にご利用者の人権に鋭く配慮する職場環境づくり	一年間	富元	
専門性の向上	継続	職員全体で「個別支援計画」への認識をより深める	「障がい理解」と「障がい特性」への理解・認識を深める/援助スキルの向上と全体共有	一年間	岩瀬	
関係諸機関との連携を推進・強化	継続	より良い支援に向けたご利用者の情報交換・意見交換及び関係者との信頼関係を築く	ご利用者の養育に困難を来しておられる保護者支援の具体化	一年間	岩瀬	
環境整備	継続	ご利用者の身の安全の確保を図る	遊具や備品の破損等危険個所の日常的且つ定期的点検・補修の徹底	一年間	池本	
BCPの作成	新規	弊所の実情に即した応用を図る	職員間での共有を図る	一年間	池本	
健康・衛生管理	継続	日常的健康・衛生管理の徹底	感染症予防意識や、食物アレルギーに関する知識を含めた健康・衛生管理に対する日常的意識の向上	一年間	岡崎	
各種マニュアルの周知・徹底	継続	保護者への周知	避難訓練や防犯訓練等の実施内容を事前・事後に周知しマニュアルへの理解と評価を得る	一年間	岡崎	

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 6 年 4 月 26 日

事業所名 児童発達支援 ハイタッチ

保護者等数(児童数) 1 回収数 0 割合 0 %

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか						
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか						
	3	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか						
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか						
適切な支援の 提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか						
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか						
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか						
	8	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか						
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか						
保護者への 説明等	10	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか						
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか						
	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか						
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか						
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか						
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか						
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか						

	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか					
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか					
	19	個人情報の取扱いに十分注意されているか					
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか					
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか					
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか					
	23	事業所の支援に満足しているか					

児童発達支援自己評価表

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 4 月 26 日

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービス ハイタッチ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	1	玄関前ガレージに人工芝を敷き、ブランコ等を置いて遊びの空間を広げている。2階も利用している。	
	2	職員の配置数は適切であるか	2	2		
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	1	3		構造化に向けて、室内のレイアウト等の試行錯誤を続けていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4			
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	1		
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	3		検討課題としていきたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	1		内部研修をより充実させ、外部研修には積極的に参加していく。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4			
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	1		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	2			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4			
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4			
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4			

	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4			
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	1	パート職員による支援上の「気付き」も、全体で尊重するようにしている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4			
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	4			
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	2	1		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	1		
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	1		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	3		
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	1		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4			
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	1	3		検討課題としていきたい。
保護者への説明	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4			

責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		4		
非常時等の対応	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	1		随時、SNSを有効に活用していきたい。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	4			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	2	「地域に開かれた事業所」という意味でも、毎月一度「みんなで町内ごみ拾い」の取組みを設けた。	周辺地域へのPRも、検討課題とする。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4			
42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4				
43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	4				
44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3				
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4				
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4				
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4				

サービス改善計画書

策定日：2024年4月26日

事業・サービス名：児童発達支援

施設・事業所名：ハイタッチ

自己評価項目	評価結果	問題点・課題	改善内容と目標	時期と期間	責任者	備考 (必要な予算等)
児童発達支援の社会的役割と意義に対する認識	新規	就学前児童の「最善の利益」を追求する	新入所児童の「障がい特性」への理解と全体共有	一年間	富元	
職員の連携強化	継続	新入所児童の情報共有	より多く正確な情報に基づく適正なる支援の全体共有	一年間	富元	
関係機関との連携	継続	新入所児童の情報収集に努める	保育園の見学や関係者との話し合い等を通じて支援のポイントを全体共有	一年間	岩瀬	
保護者との連携	継続	新入所児童及び保護者の入所前と入所開始後の不安を払拭していく	新入所児童の「障がい特性」やADL面のより正確な情報の全体共有	一年間	岩瀬	